

令和5年度第1回越谷市生涯学習審議会会議録

1. 期 日 令和5年(2023年)7月20日(木)
2. 会 場 中央市民会館4階 第13~15会議室
3. 開 閉 会 開会 午前9時45分
(午前9時45分から10時まで委員委嘱式)
閉会 午後0時5分
4. 出席委員 30名
長岡委員、会田委員、宮園委員、山口委員、宮崎委員、戸張委員、杉山委員、島村委員、大野委員、佐々木(京)委員、中村(良)委員、石塚委員、石橋委員、飯島委員、中村(英)委員、小林(修)委員、星野委員、小林(昌)委員、夏目委員、佐々木(清)委員、片野委員、北畠委員、青山委員、織田委員、計良委員、小林(威)委員、小林(大)委員、住田委員、真壁委員、吉川委員
5. 欠席委員 2名
西村委員、大山委員
6. 事務局出席者
吉田教育長※委員委嘱式のみ
小泉教育総務部長、木村生涯学習課長、
川島 桜井公民館長代理、中村(則)新方公民館長、前田 増林公民館長、
綿引 大袋公民館長、小林 荻島公民館長代理、中村(清)出羽公民館長、
栗原 蒲生公民館長代理、名倉 川柳公民館長、飯田 大相模公民館長、
戸張 大沢公民館長、山納 越ヶ谷公民館長、大橋 南越谷公民館長代理、
平林 北越谷公民館長
生涯学習課：北郷副課長、野中主幹、堤主幹(統括)、久保主幹、
新井主査、加藤主任

会 議 次 第	
1	開 会
2	会長及び副会長の選出について
3	協議事項 (1) 越谷市人権教育推進協議会委員の選出について (2) 埼玉葛郡市社会教育振興会理事の選出について
4	報告事項 (1) 令和5年度事業について (2) 越谷サンシティ整備事業の一部見直しについて
5	そ の 他
6	閉 会

会議内容

- 1 開 会 北郷副課長（司会）
 - 司 会 会議に出席している職員を紹介する。
 - 事務局 本審議会のこれまでの経緯、本審議会において協議いただく事項等について、令和5年度越谷市教育行政重点施策を使用して説明する。
- 2 会長及び副会長の選出について
 - 司 会 越谷市生涯学習審議会条例第5条第1項に基づき委員に諮る。
※事務局一任の声あり。
 - 司 会 事務局が提案してよろしいか委員に諮る。
※異議なしの声あり。
 - 事務局 会長に青山委員（名簿No.25）を、副会長に北畠委員（名簿No.24）を提案する。
 - 司 会 委員に諮る。
※拍手あり。

事務局提案のとおり承認され、会長に青山委員、副会長に北畠委員が選出される。

3 協議事項

（1）越谷市人権教育推進協議会委員の選出について

（2）埼玉葛郡市社会教育振興会理事の選出について

- 事務局 資料、資料1に基づき、各組織の概要、主な活動内容、本審議会への委員推薦依頼について説明する。
- 議 長 選出方法について、委員に諮る。
※事務局一任の声あり。
- 議 長 事務局が提案してよろしいか委員に諮る。
※異議なしの声あり。
- 事務局 越谷市人権教育推進協議会委員に石塚委員（名簿No.12）を、埼玉葛郡市社会教育振興会理事に石橋委員（名簿No.13）を提案する。
- 議 長 委員に諮る。
※拍手あり。

事務局提案のとおり承認され、越谷市人権教育推進協議会委員に石塚委員、埼玉葛郡市社会教育振興会理事に石橋委員が選出される。

4 報告事項

（1）令和5年度事業について

①社会教育について

- ア 令和5年度埼玉葛郡市社会教育振興会総会並びに研修会
 - イ 令和5年度埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会総会・研修会
 - ウ 第32回「埼玉葛人権を考えるつどい」～出合い ふれあい 思いやり～
 - エ 令和5年度東部地区社会教育関係委員・職員研修会
- ※委員から意見等なし

②公民館について

- ア 公民館主催事業

各公民館長から令和5年度の特色ある事業について資料2に基づき説明する。

※資料を訂正する

・訂正箇所：資料2の8ページ「成人期」の表No.5

【誤】事業名：人権教育指導研修事業

【正】事業名：人権教育推進事業

(主な質疑)

- 委員 どの公民館も地域の一員として子どもたちを支える多くの活動をしていただき、心より感謝している。子ども会としてもそのような活動に積極的に参加し、地域の一員として頑張ってもらえるよう声掛けをしていきたい。
- 議長 近年大雨など、全国的に今までと規模の異なる災害が起きている。特に越谷市は川のある町のため、防災に対する独自の視点があるのではないかと。大きな災害が起きた時に、公民館や社会教育が元気な町の方が、避難などの際に地域が有効的に動いているという傾向もある。公民館単位で防災に関する取り組みや事業はあるか。
- 事務局 荻島公民館では、今年度防災講座を開催予定である。館長が講師となり、地域防災について幅広く話をする。
- 委員 子ども会と越ヶ谷公民館で防災デイキャンプを行う。市内に参加を呼びかけ、他の地区からの参加者もいる。小中学校で防災教育に積極的に取り組まれている影響かと思う。子どもたちが非常時に自分の命を自分で守れるよう、避難所の体験（段ボールベッドや簡易トイレの組み立て、非常食の試食等）を実施する。
- 議長 防災については、ただ訓練をするというと人が集まりにくいので、デイキャンプのような工夫をした取り組みは重要と考える。
- 委員 先日の大雨では越谷市の対応が遅かったのではないかと。公民館では早く準備を始めていただいていたと思うが、市の防災無線の放送が遅かった。それでは高齢者の避難が間に合わないのではないかと。今まで防災については地震か火事の話し合いをしていたが、今回南越谷地区では初めて水害についても話をしようとしていた矢先であった。コミュニティ推進協議会委員のマンションも水害に遭い、その経験を地区の防災の話し合いで生かしていこうと話している。今まで水害について皆あまり関心をもっていなかったのではないかと。自分の命は自分で守りながら周りにも気を遣って、災害の少ない越谷市にしていきたい。他の地区でも大変な被害の話を聞いている。昔から水害の多い地区でも最近ではよくなったと聞いていたが、昔を思い起こすようなことが起きたので、今後も注意していきたい。
- 13地区の公民館職員は大変であったと思う。改めて感謝を申し上げたい。

- 事務局 市の連絡体制が遅かったという声は他からもいただいている。対策本部において、今回の対応について検証しているため今後に生かしたい。今までは水害というとせんげん台駅や弥栄地区が多かったが、今回は南の地区で想定外の被害があった。今までの想定を見直すきっかけとしたい。情報提供についても、今後迅速に対応できるよう市として対策をしていく。
- 委員 講座の参加人数が少ない理由について、公民館自体を知らない、行ったことがない、という理由もあるのではないか。新しく公民館を建てた地区は、どのように周知の工夫をしたのか。例えば、クールシェアやサロンのように気軽に寄れるような施策などのアイデアがあったら教えてほしい。
- 議長 公民館の認知度向上について、何か取り組んでいることはあるか。
- 事務局 大沢公民館は13館の中で最も直近の令和3年度9月に建て替えをした。供用開始前に、地域の方と協力して広く周知を図るために大規模なイベントなどの準備をしていたが、緊急事態宣言となり、規模を縮小して行った。オープン前にまずは中を見ていただき、どのような施設なのかを知ってもらうことに重点をおいて進めた。
- 供用開始後、公民館主催事業の情報を若い人を含めた幅広い年代の方に知ってもらうために、SNSを活用するなどして周知を図った。地域の子どもが自由に活動できるような共用スペースを広めにとって、居場所を作っており、子育てサロンや子ども食堂などの活動の拠点としても利用いただくなど、多くの方に利用していただけるよう工夫している。
- 委員 最近Wi-Fiの設備が様々な場所で見られる。公民館内のWi-Fiの整備については重要性が高いと思うが、どのような考えか。
- 事務局 こしがやフリーWi-Fi (KOSHIGAYA_FREE_Wi-Fi) という、もともと災害用として整備したWi-Fiは設置されている。1日3回、1回1時間までであり、現在は事務所の周辺のみつながる状態となっている。南越谷地区では地区の公式LINEアカウントを作成しており、公民館運営協力委員会、自治会連合会、コミュニティ推進協議会及び地区スポーツレクリエーション推進委員会から費用を支出して運用している。地域情報に特化した情報連絡手段となっており、4,000人を超える登録者がいる。集まらなくてもできる地域の情報共有をテーマとしている取り組みで、防災と事業周知という2点を軸としている。防災については、オンライン避難訓練と称し、訓練に参加して最後まで進めるとお得なクーポンの抽選もできる。当選者には窓口で防災食を渡し、避難場所の確認も兼ねており、地域の方に遊びながらスマホに慣れていただき、公民館の場所も知ってもらうことができる。

- 副議長 公民館ごとに、SNSの発信は自由に行っているのか。
- 事務局 公民館ごとというわけではなく、市の公式アカウントが基本的な情報発信ツールとなる。南越谷地区のLINEは、市や公民館とは離れて、あくまで外部団体であるコミュニティ推進協議会の事業である。
- 副議長 国としてDX戦略が行われており、越谷市でもそれを主導している部署があると思うが、そちらと連携するのはいかがか。住民の孤立を避けるためにDX戦略がある。公民館や委員の方々が宣伝しても限界があり、皆さんその限界を知っている訳なので、広まらないところにどう伝えていくかという点で連携できるとよいのではないか。
- 事務局 DX戦略は行政デジタル推進課が担当となり、市の情報化推進計画に基づいて進めている。現在、Wi-Fiについては、13公民館において1階ロビー付近で使えるフリーWi-Fiを設置しているが、今後の拡充やSNS等の発信の方法について、行政デジタル推進課と連携をとりながら、今後どういった方法で市民の方にご利用いただけるかを検討してまいりたい。
- 委員 自分はそば打ち愛好会の会長をしており、公民館のそば打ち講習会の講師を行っている。和食の文化を大事にたく力を入れている。コロナ禍では活動が制限されていたが、やっと活動ができるようになった。しかし、まだ市民が慎重に行動しているように思う。また、愛好会の会員数も少なくなってきたおり、公民館からの依頼を受けられるような講師が育てられない課題がある。生涯学習課では、クラブ・サークル・団体ガイドやリーダーバンクなどを作成しているが、アフターコロナの中で何をすべきかという視点を持った方がよいのではないか。SNSの発信も大事だが、生涯学習に関わる人はアナログな人も多い。そのため、チラシやポスターを作って公民館に持参しているが、公民館に来る人も限られているので、学びをしていない方に対しても広く発信していくには弱いと考えている。民間企業等を活用して周知ができないか模索している。例えば、地元のスーパーのイートインコーナーなどにチラシを置いて利用客に学びのきっかけを提供したいと考えているが、様々な団体のチラシの配架依頼を市でできないか。個人が飛び込みで行くのはなかなか難しい。生涯学習は行政や団体だけではなく、民間施設も加わって進めていかないと広まらないのではないか。アナログな方法でPRできないか。
- 委員 公民館の様々な取り組みは越谷市の資産であるという印象を受けた。ただ、目に付きづらくもったいないとも思う。公民館主催事業について、4点質問したい。1点目、極端に人数が集まらなかった事業はどうするのか。2点目、各公民館で同じような事業名や内容のものが目に付くが、住んでいる地区ではない公民館

の講座を受けることに何か制約はあるか。3点目、そもそも事業名や事業内容をどのように企画されているのか。4点目、自分が参加した「がもう楽生塾」はメールで案内が来たが、メールで案内が来るものと来ないものの住み分けはどうなっているか。

○委員 公民館主催事業の中では、こしがやミュージックフェスタの人数がとても多いように思う。先ほど防災の話があったが、万が一に備えるという事ももちろん大事だと思う。DX戦略やSNS等について、スマートフォンやパソコンは国民全体に普及しているので、恐らく毎日使用するものであると思うが、プログラミングの講座は2講座ほどしか手元の資料では確認できない。特に幼児教育の場では非常に重要で、親との繋がりのために緊急メールをほぼ毎週使用している状態である。プログラミングやSNS（LINE、ツイッター等）の使い方については、学校等で教わる機会がなかなか得られない。自身も小学生の子どもがいるが、プログラミングの知識を深く吸収したい場合は、通信教育など別途お金がかかってしまう。千葉県ではタブレットやノートパソコンを1人1台貸し出しているが、それを親が教えられないという状況が発生している。可能であれば、公民館という身近なところから、学べる機会があればありがたいと考える。

○事務局 アナログの大切さについては実感している。コロナ禍でオンラインの大切さも浮き彫りになり、そちらも進めていかなければならないが、生涯学習に関しては、越谷市は公民館を拠点として進めてきており、講座を受けてサークルを立ち上げたり、講師に直接質問したり、アナログで人々が集まって有機的な繋がりを持つことは大事だと考えている。民間施設へのPRについては、公共施設と比較して難しさもあるが、周知の場を広げていきたいと考えている。

人数が集まらなかった講座については、延期する場合も、そのまま実施する場合もあり、状況に応じて判断している。複数の公民館で内容が重複している講座があるという点については、家庭教育学級や人権教育に関する講座のように、行政として取り組むべき内容については13地区すべてで行っているものもある。また、他の地区で人気があった講座を取り入れる場合もある。

住んでいる地区外の参加については、基本的には公民館報で地区内向けに募集をするが、「生涯学習メニューTRY」で、全市向けに募集をする講座もある。内容によって地区外の参加も可能である。

事業の企画については、公民館ごとに前年度の実績などを踏まえて企画・立案し、各地区公民館運営協力委員会において協議のうえ承認していただいたものを実施している。毎年度見直し・検討をしている。

メールによる周知については、メールは若い方への周知効果が高いので、親子向けや若い方向けの講座の案内に利用したり、空きがある講座の追加募集に利用したりしている。講座ごとに周知効果を考えてメールを利用している。

プログラミングの事業については、デジタルネイティブと言われる世代への教育も必要であると思うので、今後検討していきたい。

資料2に記載の事業は、公民館主催事業のうち、生涯学習講座として行っているものを掲載している。公民館を拠点に様々な活動をしており、例えば、昨年度から行政デジタル推進課が主体となって、デジタル活用支援推進事業スマートフォンセミナーとして、各公民館や中央市民会館を会場に、高齢者を対象としたデジタル活用について学ぶ講習会を全地区で開催している。ほかにも、各地区のコミュニティ推進協議会や自治会など、様々な団体が主体となって取り組んでいる事業もある。

イ 生涯学習課との連携事業

- ③家庭教育について
 - ④その他生涯学習の推進について
 - ⑤文化振興事業について
- ※委員からの意見等なし。

(2) 越谷サンシティ整備事業の一部見直しについて

○委員 まず、公民館長にお礼申し上げる。事業計画を見ると、子どもを呼ぶと大人も来る、大人を呼ぶと子どもも来る、という形で、考えて計画していただいていると感じる。

水害について、皆さんそれぞれ意見が違うのは仕方ないが、私は越谷市はよいと思っている。水害の際も、丘陵や山がないため、土砂崩れも起きない、川で家が流されることもない。新方公民館は、避難所としては川が近いため行きづらいが、いざという時は近所の人之家に避難させてもらえるよう話をするなど、近隣のコミュニケーションがとれている。

サンシティについて質問だが、サンシティはかつて伊藤忠商事が所有していたが、今はすべてに越谷市が所有しているのか。また、それはいつからか。

○事務局 かつては様々な企業が出資する第3セクターであったが、令和2年8月1日付で越谷市が所有権を取得し、現在はすべて越谷市の所有である。

○委員 生涯学習リーダー・ボランティア養成講座について質問する。対象が生涯学習リーダーやボランティアとして活動している人であり、ボランティア活動の推進やリーダーの育成を目的としているが、開催日が平日であるのは理由があるか。土日の方が働い

ている人や若者が参加しやすいのではないのか。

- 事務局 こちらもそのように考え、土曜日開催をしたことがあるが、平日開催をした場合と参加人数が変わらなかったため、現在は平日開催としている。今後、参加人数が減ってくるなどした場合には土日開催も検討したい。

青山会長が議長の職を降り、司会が進行役となる。

5 その他

- 事務局 連絡・報告事項を2点伝える。

1点目に、本審議会の今後の予定について説明する。第2回会議は10月下旬から11月上旬に、第3回会議は令和6年3月に予定している。日程等の詳細が決まり次第、郵送で通知する。

2点目に、本日配付の資料は、生涯学習の参考として情報提供させていただいたことを説明する。

6 閉 会 北畠副会長